

(私) 東北学院大学

法学部
法律学科

キャリア教養学科 (福島西高校出身)

Q1.編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

短期大学に入学する前から、編入すると決めていました。理由は大学受験のリベンジと、四年制大学を卒業したほうが、のちのち就職した際に、待遇や給与が良いからです。初めはこの二つが強い理由でしたが、今では、自分の研究をより深い部分まで学びたいので、二年間だけでは物足りないと感じるようになってきたことが一番の理由です。

Q2.編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

まず聖母アワーでは、二年の春から小論文の授業が始まりました。ここでは手紙の書き方や、検定の勉強も同時にしていました。そのあとは英語・小論文・面接練習を順番に行うようになり、小論文の授業の後は必ず課題が出て添削をして頂きました。面接練習では事前に担当の先生に志望理由書を書いて見て頂きながら練習することができました。

Q3. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

一年次と二年次の聖母アワーで、担当の先生方から指導を受けました。本格的に学習指導が始まったのは、二年の初めからで、英語や小論文、面接練習などを順番に行っていました。順番に行っていました夏休み中の小論文添削や面接練習は、自分で直接先生方をお願いしていました。

Q4.編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

一番努力したのは面接練習だと思っています。大学を二つ受ける予定だったので、片方ばかり重点的にやってしまいました。それが原因で先に受ける方の面接練習がおろそかになり、話す内容を考えることにとても苦労しました。特に、面接で話すために一年次に習った法学や日本国憲法の判例を思い出しながら、自分の考えをまとめることが大変だったように感じます。面接の準備は、もっと早いころから始めるべきだったと、反省しています。

Q5.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

特別研究とゼミでの講座作りだと考えています。短期大学で自分の論文を書くために研究テーマを持っていることは、他大学へアピールできる魅力であり、自分の力を高めるものだと感じました。また、講座作りでは、自分たちでイベントを計画したり、公民館の方と話す機会を設けていただいたり、地域政策にかかわる問題を知ることでもできたので、自分にとって大きな力となりました。

Q6.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

面接練習の際に、特別研究を進めて研究内容を具体的に話したほうが、面接で役に立つというアドバイスをいただき、実際に面接で話すことができました。特別研究についての質問が来ても、混乱せずに話すことができるので、進めておいてよかったと感じました。

Q7.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを書ける範囲で教えてください。

①面接がアットホームで楽しみながらすることができ、また学内の雰囲気からとても良い印象を受け、この大学に早く入学したいと感じました。

②一度の失敗を踏み台にして、この大学で二年間努力し、編入合格という道に向けて、学んで行かなければならないと、意気込んでいました。

③とても緊張していて、自分の勉強量や努力の少なさ、甘えに後悔していて、早く終わらせて解放されたいという気持ちでいっぱいでした。

④とても安心したと同時に、来年の自分を想像して、この二年間以上に努力しなければならぬと自分に再度確認していました。嬉しさもありましたが、これからの苦労を考え、少し緊張もしていました。

Q8.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

今高校生の方で、編入したいと考える方は、ぜひ聖母短大がおすすめです。他大学よりも編入に力を入れているので、英語・小論文・面接練習など多方面からたくさんの先生がサポートしてくれます。編入を目指すには最適な環境だと私は思っています。現在、聖母短大で編入を目指している方は、英語・小論文は今から勉強するべきです。特に英語はコツコツ勉強することをお勧めします。そして、面接練習に向けて、大学研究を怠らないことも大事ですが、一番は特別研究のテーマをよく考えておくことです。特別研究はまだ先だと甘い考えは捨て、まずはテーマを固めることをお勧めします。